

制作
真法会研究室

真法会研究室

研究室案内2025

心と力のある法曹になるために

一真法会の強み一

学生時代に法律家の基礎を鍛えましょう

法曹の道を目指している皆さんの高い志にまずは敬意を表します。法曹の世界は決して楽なものではありませんが、達成感に満ちた人生を送れると思います。そして、学生時代は皆さんが心と力のある法曹として歩いていくために必要な基礎を養うには重要な時期なのです。

そのために何をすべきでしょう。もちろん、単なる試験対策ではない、法律の考え方を基礎から学ぶことが重要です。

しかし、さらに重要なことは、ゆるぎない向上心を持って、物事を熟考する姿勢と、試練を乗り越える胆力とを鍛えることです。将来良き法律家として仕事をするためには、これらが極めて重要なのです。

もちろん、こうした内面の強さは、一朝一夕に鍛えられるものではありませんし、自分一人の力で身につくものでもありません。多くの人たちと交流し、議論し、さらに自分の内面に立ち返って熟慮する、といった過程を繰り返すことにより、少しずつ、しかし着実に、足腰の強い実力として醸成されていくのです。また、そのような交流で培われた室員相互の関係は将来の重要な財産にもなっています。

司法試験合格は目標ではありません

現在、司法試験受験までの期間短縮を目的とした一貫教育コースを始めとした新しい法曹養成制度が実施されています。学部が上がるにつれ目の前の試験に気を取られることもあると思います。しかし司法試験合格は長い法律家人生にとっては単なる手段であり、スタートにすぎません。その後、法律家としてどのように活躍できるかが重要なのです。

多くの真法会員は、学生時代に鍛錬を繰り返すことで、心と力のある法曹となって、社会の各方面で活躍してきました。「急がば回れ」というのはやはり真実なのです。

真法会の強みは、まず充実した学習環境、学習制度にあります。室員は学年を越え、日夜議論しながら法律学習に励みます。さらに、司法試験合格者や法科大学院合格者による後輩指導が年間カリキュラムに沿って実施されています。このカリキュラムは、年々先輩弁護士たちによって都度ブラッシュアップされています。かつ着実な社会的存在として大成できるよう、今の時間を大切に過ごすことが肝要です。

このような環境で、法律家としての足腰を十分に鍛えることこそ、その後の法曹としての活躍の基礎になると言えます。近年の毎年の実績から明らかなように、真法会室員は法律家としての十分な基礎的実力をつけ、試験合格テクニックの習得に右往左往することなく、司法試験に合格して法曹の世界に羽ばたいていっています。

真法会のネットワーク

真法会の充実した学習環境、研究室運営を支えるのは、室員相互間はもちろん室員と先輩会員間のつながりの深さです。年間を通じて室員相互の親睦を深めるための行事を行っています。さらには室員と先輩会員との交流を図る行事も実施しています。

例えば裁判所と検察庁の見学、弁護士事務所訪問は、先輩会員の実務家としての生の姿に触れることができる貴重な体験となります。これらを通して、室員は自身が目指す法律家像をより明確なものとし、より一層日々の勉強に磨きをかけてい



中央大学真法会理事長
弁護士

西村光治

す。多摩キャンパスから茗荷谷キャンパスに移転したことにより、先輩会員との距離が物理的にも近くなり、このような交流の密度がより一層高まっています。

学生主体の真法会

真法会は、昨年で創立90周年を迎えた伝統ある研究室です。どの時代もこうした環境を十分に生かしてお互いに高めあっていく文化を大事にしつつ、時代に即して明るく開かれた学生主体の組織を運営してきたからこそ、全国的に知られた中央大学随一の学術研究団体であり続けています。是非とも真法会の門を叩いてみてください。

真法会研究室とは

私たち真法会研究室は、学研連に所属する研究室の一つです。長い歴史を持ち、今年で創立91周年を迎えます。これまで、法曹界を中心に、政財界、学界などにも多くの優秀な人材を送り出してきました。その中には、最高裁判所判事、最高検察庁次長検事、日本弁護士連合会会長など重要な役割を担った先生方もいます。私たち室員は、多くの偉大な先輩方の姿に刺激を受け、自らの志を常に高く持ち勉学に励んでいます。

現在、真法会研究室の室員は50名(女27名・男23名)です。在学学生は研究室にて、定席での自習学習や室員間での議論を通じて、互いに切磋琢磨して日々の学習に励んでいます。



2024年度司法試験合格者: **20名**

2024年度の司法試験では、**全学研連1位**の20名の合格者を輩出しました。また、直近5年間での合格者は**全学研連トップ**の成績です。

当研究室出身の法律家: **約670名**

真法会研究室出身の法律家は現在、約670名います。そして、真法会研究室には、法律家である先生方と交流する機会が多くあり、自身の将来像についてイメージを膨らませることができる環境が整っています。

中央大学

中央大学では、令和2年度から新しい法曹コースが始まりました。この法曹一貫コースを利用することで法科大学院と一貫した教育を受け、学部を3年間で卒業することができます。

在学中・後

学部3年間で学
法曹一貫コース
学部4年間で学
法曹一貫コース以外

予備試験

司法試験予備試験は、法科大学院を修了した者と同等の学識を有するかどうかを判定する試験です。

合格者には法科大学院修了者と同じく、司法試験受験資格が付与されます。

法科大学院

法科大学院は、法曹に必要な学識及び能力を培うことを目的として設置されました。

3年間の未修者課程もしくは2年間の既修者課程のいずれかを修了すると、司法試験受験資格が与えられます。

※2023年から、法科大学院の最終学年で司法試験を受験可能になりました。

司法試験

裁判官、検察官、弁護士になる資格を得るための試験です。短答試験と、論文試験があります。

法律家へ

段階的に学べる 法律学習の強い味方

初めての法律の勉強に不安を感じている方も多いと思います。

真法会研究室では、**司法試験やロースクールに合格した先輩方によるカリキュラムゼミ**が組まれており、法律を一から段階的に学び、しっかりとした実力を身につけることができます。

また、ゼミの前のアンケートによりチューターへ直接、要望を伝えることもできます。

1年生

2年生

4月下旬
～
8月中旬

民法新歓ゼミ

民訴・刑訴
講義ゼミ

9月
(合宿)

民法論文ゼミ

民訴・刑訴
論文ゼミ

9月上旬
～
10月下旬

憲法講義ゼミ

商法講義ゼミ

11月上旬
～
12月中旬

憲法論文ゼミ

商法論文ゼミ

12月下旬
～
3月中旬

刑法講義ゼミ

行政法講義
論文ゼミ

刑法論文ゼミ

民法・刑法・憲法
答案練習ゼミ

講義ゼミ

真法会オリジナルのレジュメを使い、基礎的な知識の定着を図るゼミです。

論文ゼミ

問題演習を通じて、論文の書き方を学ぶゼミです。実際に答案を書くことで、実践力が身につきます。

答案練習ゼミ

論文を書き、先輩に添削してもらおうゼミです。1対1の指導で、さらなる力を養います。

1,2年生は原則ゼミには参加してもらいますが、個人の時間割を考慮した日程でゼミを組むので、バイトやサークルとの両立もできます！

年間行事

裁判所見学

8

室員の感想

裁判所見学を通じて、法曹の仕事についてより具体的なイメージを持つことができました。

裁判傍聴では、真法会のOBの裁判官の方が担当している裁判を傍聴しました。文章でしか見たことのない裁判手続きを自分の目で見る経験は得難いもので、人の裁きに関わることの重みをより一層実感しました。

裁判の後には、OBの方と直接お話をする機会を設けていただき、日ごろの実務についてや真法会での思い出などたくさんの貴重なお話を伺いました。実際に裁判を担当した方からお話を伺うことで、ぼんやりとしか考えていなかった自身の進路についてより深く考えるきっかけになりました。(3年 阿部汐菜)



室員の感想

検察庁見学

検察庁見学では、机上の学習のみでは得られないような貴重な体験をすることができます。検察官の説明を受けながら庁舎内の見学をした際には、実際の取り調べ室を見せていただいたり、司法面接を体験させていただいたりしました。随時質問することで見学のみで終わらず、これによって得た知識を深く理解することができました。

その後検察官の方に検察官の仕事を説明していただいたうえで、座談会形式で交流を深めました。私は実際の仕事内容や普段の生活について知らない部分も多かったですが、この機会を通して知ることができてよかったですと思っています。

検察庁見学をはじめとした実務家の方々の仕事を見学する機会があることは真法会の魅力の一つだと思います。このような行事を通じて、私は自身の将来について考えを深めることができました。(3年 小林美晴)

弁護士事務所訪問

9

弁護士事務所訪問では、弁護士として活躍されている真法会の先輩方の事務所に訪問させていただきます。その中で普段どのようなお仕事をされているのかお話を具体的に伺い、実際の仕事を見せていただきました。

この行事を通じて実際の弁護士の仕事について知ることができ、自身の将来を考えるにあたって非常に貴重な経験をすることができます。

さらに、イメージをすることがなかなか難しい法曹の仕事を実際に目にすることで自分自身が法曹を目指すにあたって高いモチベーションを得て学業に励むことができるようになると思います。

このような機会は強い縦のつながりがあるからこそ得ることができるものであり、真法会研究室ならではの大きな魅力であると思います。(2年 柳谷光星)

室員の感想



5

新歓スポーツ大会

スポーツをしながら、たくさんの先輩・同期と交流を深めることができる機会です。



8 ロースクールガイダンス

法科大学院に進学された先輩から各学校の紹介や進学へのアドバイス、勉強方法等を聞くことができます。



11 創立記念式典

真法会最大の行事であり、普段会うことのできない著名なOBOGの先輩方と交流できます。



9 夏季合宿 (※実施未定)

4泊5日の合宿を行います。ゼミ、自主学習に集中して打ち込むことができます。最終日に行う打ち上げも楽しみの一つで、室員間の交流が深まります。



R6 新入室員たち

12 忘年会



3 卒業生歓送会

お世話になった先輩方の門出を祝います。



学習環境

豊かな知識を育む、豊かな環境

研究室ルール



01 共同研究室

POINT



真法会研究室の扉を開くと、共同研究室があります。室員はここでわからない箇所についてお互いに議論したり、学習の息抜きとして休憩をとったりしています。

1年生から4年生まで室員間の交流を深めることができる空間です。

パソコン1台、コピー機、冷蔵庫、電子レンジなどが完備されており設備も充実しています。

02 中部屋

POINT



共同研究室の扉を開くと、中部屋があります。中部屋には冷暖房、加湿器、そして全部で61席ある定席には、1席につき2つのコンセントが完備されています。

真法会研究室に入室すると、1人1つ定席が与えられます。定席は快適な環境で、集中して学習に取り組むことができるようになっています。

03 蔵書

POINT



真法会研究室の共同研究室には、書籍や資料が所狭しと並んでいます。

室員はここから判例集や基本書を自由に閲覧し、借りることができます。

01 研究室の運営

POINT

真法会研究室では、入室2年目の室員が研究室の運用を担っています。

法曹をはじめとする多くの先輩方と関わることによって、机の上では得られない貴重な経験をすることができます。法曹や企業人となった多くの先輩方が社会に出て役立ったと仰っています！



02 登室制度

POINT



登室集計とは室員が研究室に滞在した時間を表に記入する制度のことです。

月ごとに登室時間のランキングが発表されるため他の室員がどれだけ勉強しているかが分かり、室員の勉強のモチベーション維持に役立ちます。

03 共研当番

POINT

真法会研究室では、室員が順番に、朝と夕方それぞれ30分程度、研究室の掃除などを行います。これによって、快適な学習環境を確保することができ、室員全体が集中して法律の学習に打ち込むことができます。

04 室費

POINT

真法会研究室では、研究室の快適な環境を維持するため、月に3000円の室費がかかります。



合格実績

20名

2024年度司法試験合格者

法科大学院合格実績

私立

中央大学.....20名
(全免14名、半免3名)
慶應義塾大学...14名
早稲田大学.....3名

国立

東京大学...10名
京都大学...1名
一橋大学....1名
神戸大学....1名

(法学部法律学科卒業)

東京大学法科大学院(進学先)
他、
中央大学法科大学院
慶應義塾大学法科大学院

合格!

真法会研究室の一番の魅力は、室員同士のつながりが強く、OB・OGの先輩方とのつながりも強いことです。入室して以来、先輩方が実施するゼミを受講したり、論文の添削を行ってもらうことで、法律の学修を効果的に進めることができました。同じ目標を志す同期と切磋琢磨しながら学修を行い、先輩方からの手厚い指導等があったからこそ、司法試験への1つの壁である法科大学院入試を乗り越えることができた実感しています。

また、学修面以外にも、真法会は行事を通じて社会で活躍している先輩方と関わる機会が多くあります。事務所へ足を運び、事務所の見学や先生方から実務の話やアドバイスを伺うことで、今学修している法律が実務ではどのように用いられているのかを早い段階で知ることができます。様々な分野で活躍されている先輩方からも話を伺うことができます。様々な分野で活躍されている先輩方からも話を伺うことができます。様々な分野で活躍されている先輩方からも話を伺うことができます。

また、学修面以外にも、真法会は行事を通じて社会で活躍している先輩方と関わる機会が多くあります。事務所へ足を運び、事務所の見学や先生方から実務の話やアドバイスを伺うことで、今学修している法律が実務ではどのように用いられているのかを早い段階で知ることができます。様々な分野で活躍されている先輩方からも話を伺うことができます。様々な分野で活躍されている先輩方からも話を伺うことができます。

(法学部法律学科卒業)

中央大学法科大学院(進学先)

合格!

法律の勉強は1人では辛く苦しく、まるで灰色の世界のようなのですが、真法会研究室では愉快的仲間たちがそのような灰色の世界を鮮やかな色で染めてくれます。私は2年次入室として当研究室に入室し、周りや比べて法律の学習が遅れていたため、法科大学院入試は肉体的・精神的にかなり大変でした。しかし、当研究室の頼れる先輩方や面白い同期たち、可愛い後輩たちのおかげで安心感のある日々を過ごすことができ、無事に乗り切ることができました。このような仲間たちの存在は当研究室における大きな強みであると感じています。

また、当研究室は学習環境においても非常に秀逸です。上記の通り私は2年次入室でしたが、カリキュラムゼミや論文面談などの手厚いサポートを通して1年間の遅れを早急に取り戻すことができ、勉強方法についても先輩方のアドバイスにより自分に最適なやり方を確立することができました。

以上の経験から、私は真法会研究室に入室して良かったと心から思います。皆さんとも真法会の仲間として交流できることを楽しみにしています。

実務家からのメッセージ

01 弁護士

私は現在、弁護士3年目として、都内の法律事務所企業法務を専門に取り組んでいます。日々の業務では、ベンチャー企業やスタートアップ企業に対する法務支援を中心に、M&Aや企業間の訴訟・紛争処理などを担当し、社会の最前線で法律問題と向き合っています。弁護士として活動する中で、学生時代に得た学びや経験がいかに貴重であったかを痛感する毎日です。

これから中央大学で司法試験合格を目指す新入生の皆さんは、どのような環境で学修をスタートするのが最も効果的か、迷うことも多いでしょう。私の経験から自信を持ってお伝えできるのは、「真法会研究室」こそが最も頼れる環境であるということです。真法会には充実した学習設備と、長年の実績に裏打ちされた独自の学習プログラムがあり、さらに各分野で活躍するOBとの緊密なネットワークが強力なサポート体制を築いています。真法会の魅力は、試験に直結する実践的な講義や演習はもちろんのこと、弁護士をはじめ多様な社会人OBとの交流を通じて、社会で求められる幅広い視野やキャリア観を養える点にあります。社会に貢献できる法曹となるためには、法律の学修だけでなく、社会人として必要な経験や人間性を磨いたりすることが大切なのは言うまでもありません。真法会研究室で過ごす時間は、司法試験合格のためだけでなく、皆さんが社会人として成長するための礎となるでしょう。真法会研究室は、司法試験合格を目指す皆さんにとって最良のスタートラインであり、将来の人生の土台となる場所です。皆さんが真法会で充実した日々を送り、実り多き大学生活を送られることを心から願っています。

(平成27年入室)

私は現在、都内の企業法務を中心に扱う法律事務所勤務し、M&Aやスタートアップ法務に従事しています。現在弁護士2年目になりますが、日々新しいことの連続で、充実した日々を過ごしています。

今このパンフレットを開いている皆さんは、将来の進路に漠然と法曹を考へることもあるのではないでしょうか。

真法会研究室は、法曹や民間企業・官公庁就職のOBと世代を超えて交流する機会が頻りにあったり、司法試験合格直後の優秀な先輩のゼミや論文添削を気軽に受けることができたりと伝統に裏打ちされた確かな環境があります。

もちろん、勉強だけではありません。大学生活を彩る仲間達との出会いは貴重で、たくさん遊んだ仲間達との関係は卒業しても続く一生ものです。ここでは語り切れない真法会研究室の魅力はたくさんありますが、皆さんの期待は裏切らないと確信しています!

皆さんもぜひ真法会研究室で充実した大学生活を送ってみませんか?

(平成31年入室)

02 検察官

私は、現在地方検察庁に勤務しております。

検事の仕事は、事件の真相を解明し、法と証拠に基づいて被疑者に対して適切な処分を行うことです。

事件の真相を解明して適切な処分をするために、被疑者のみならず、被害者などの事件関係者からよく話を聞き、また、事件解決に向けて共に捜査を行う警察官とよく話し合ったり警察官に対して適切な補充捜査の指示をし、捜査・公判をしていきます。さらに、事件によっては、複数の検事で協力して捜査・公判を行うこともあります。

このように検事の仕事では、内外問わず多くの人とコミュニケーションをとり協力することが必要です。

真法会研究室では、司法試験合格に向けて学問の研鑽を図ることはもちろんですが、研究室運営で多くの人と関わることによる人格の陶冶も目標としています。

実際に私も、研究室生活で培った力を活かして、日々の業務に当たっております。皆様も真法会研究室で実りある学生生活を送られることを祈念しております。

(平成30年入室)

03 裁判官

私は、とある地方の裁判所で、刑事裁判官として充実した日々を送っています。刑事裁判官といっても、メインの仕事が刑事事件というだけで、債権執行等の民事事件も担当しています。

裁判官という職業の大きな特徴として、自分がした決定が現実にも実現するところがあります。それはとても畏れ多いことであると同時に、やりがいでもあります。裁判官として仕事をすることで、職責の重さを常に感じ続けています。そして、日々、様々な決定をする中で、真法会研究室で学んだ様々な価値観が役に立っていると感じます。

真法会研究室は、様々な人と出会い、多様な考えに触れることのできる場であると思っています。真法会研究室での生活は、楽しいものばかりではないかもしれませんが、頑張っ勉強したからといって、全員が司法試験に合格するわけでもありません。しかし、真法会研究室での経験が、その後の人生のどこかの場面で役立つときが来ると確信しています。

(平成28年入室)

真法会独自の支援

真法会研究室の室員は、真法会のカリキュラムゼミを活用して学びを深めています。

OB,OGのチューターによる独自の講義レジュメや論証レジュメを用いたカリキュラムゼミは、室員の学習の要です。

ときに休憩時間には、チューターの先輩を交えての雑談で盛り上がることも。

ゼミが終わってからも、講義の要点を書き込んだレジュメは学部試験や自己学習の際にとっても役立ちます。

さらに、研究室内のコピー機はコンビニやスーパーなどのお店に置いてあるコピー代よりも安く利用できる他、学生研究フロア維持管理費の援助も行っています。

このように、独自の支援によって室員がより良い学習ができる環境が整っています。



実業友の会

真法会研究室では法曹志望者への支援はもちろんのこと、公務員や民間企業を志望する室員への支援も行っています。

実業友の会とは、主に公務員や民間企業などで活躍する真法会研究室の卒業生により運営される団体です。

実業友の会では、公務員や民間企業への就職を志す室員に対し、多方面で活躍している先輩方による進路指導や、エントリーシートの添削、模擬面接などの就職支援を行っています。

令和4年入室

【就職先】

入室当初は、卒業後の進路について、長い大学生活の中で多くの選択肢を見つけたいと思っていたため、弁護士を目指しながら同時に就職活動もしていました。何事においてもできるだけ多くの選択肢の中から意思決定をすることが大事だと思っていますが、真法会はそれができる環境が整っていると感じます。法曹として活躍されているOBOGのお話を伺う機会もあれば、公務員や民間企業で活躍されているOBOGと交流する機会(実業友の会)もあるため、法曹と就職の両軸で、自分にとって何が最適な選択か、両者を比較した上でじっくり考えることができます。

また、実業友の会には、様々な業界で活躍されている方が数多くいるため、これもまた業界の垣根を越えて自分の選択肢を増やす機会となります。卒業後に続く自分の人生について、一つの選択肢に縛られず、無数の選択肢の中からたくさん悩み、決断したいという人におすすめしたい研究室だと思います。

入室試験要項

応募資格 本学1・2年生(学部学科不問)

募集人員 1・2年生(計20人程度)

一次試験… 4月12日(土)

▶ 論文試験、適性試験

二次試験… 4月20日(日)

▶ 面接試験

～新歓のご案内～

説明会

対面新歓

4月4日、8日
(18:00~19:00)

4月1日、3~5日、
7~8日

@オンライン

(10:00~17:00)

※4日は一般論文
書き方講座を行います

@5階ラウンジ

どちらもぜひお越しください!

※本年度の入室試験は一次試験、二次試験どちらも対面で実施いたします。
※受験される方は、4月20日(日)は 9:00~21:00の時間帯を空けておくようにしてください。
※詳しくは別紙募集要項をご参照ください。

詳しい試験情報、応募方法については
真法会の公式ホームページ又は公式X(旧Twitter)をご参照ください。
その他、公式Xや公式Instagram(@shinpou2025)では真法会研究室の新歓情報や真法会研究室の魅力が伝わる情報を随時発信中です。



公式X



公式Instagram

あしがき

このパンフレットを手にして読んでいるみなさんは、司法試験や法曹という職業に少なからず興味があるということでしょう。

しかし、そうした目標を達成するためにはどうすればいいのかわからず、漠然とした不安を感じている方もいるのではないのでしょうか。

真法会研究室には、学年を超えて日々語り合い、お互いを高めあうことのできる仲間がいます。ゼミはもちろん、自学自習という面においても肩を並べて共に学ぶことのできる仲間の存在は大きな力となります。

また、真法会研究室では実務家の先生方と交流し、その仕事を間近で見る機会も数多くあります。実務を知ることは、自身の将来像をより明確にし、学習意欲を高めていく上で不可欠です。机に向かうだけでなく、在学中から法律実務に触れることができるのは、多くの先輩法律家との強いつながりを持つ真法会研究室の特色のひとつです。

真法会研究室の最大の特徴である強い「縦のつながり」と「横のつながり」はみなさんの法曹への道筋を照らす助けとなり、また一生の財産となるでしょう。

みなさんが真法会研究室の一員となり、ともに切磋琢磨する日が来ることを室員一同心待ちにしています。

MEMO

THANK YOU FOR READING !